

平成 20 年度(2008 年度)

小学校英語活動に関する研究

～小学校5・6年における授業づくり～

新学習指導要領により、平成 23 年度（2011 年度）から小学校 5・6 年において外国語（英語）活動が必修となる。箕面市では、平成 18 年度（2006 年度）より、クラス担任が小学校英語活動授業力をつけることを目指し、全小学校からの教員で研究を進めてきた。今年度は、昨年度に引き続き、小学校 5・6 年における授業の在り方を主な研究テーマとして実践的な研究を行った。

<研究員>

猪原 香里	箕面市立箕面小学校	徳田 耕一	箕面市立西南小学校
入江 隆男	箕面市立止々呂美小学校	神崎 有香	箕面市立西南小学校
井上 善嗣	箕面市立萱野小学校	足立 稔美	箕面市立萱野東小学校
原田 みさと	箕面市立北小学校	杉本 靖代	箕面市立豊川北小学校
橋爪 貴之	箕面市立北小学校	金菱 小百合	箕面市立豊川北小学校
岸上 達哉	箕面市立南小学校	江口 幸子	箕面市立豊川北小学校
鈴木 千草	箕面市立南小学校	柏木 雅人	箕面市立中小学校
畑田 文	箕面市立西小学校	村井 邦匡	箕面市立中小学校
美馬 香里	箕面市立西小学校	藤山 哲章	箕面市立豊川南小学校
山田 則子	箕面市立西小学校	藤江 将幸	箕面市立豊川南小学校
永瀬 裕子	箕面市立東小学校	市川 泰清	箕面市立萱野北小学校
青野 遼	箕面市立東小学校		

<スーパーバイザー>

竹内 理	関西大学 教授
池田 真生子	姫路獨協大学 講師

I 研究テーマの設定について

小学校外国語（英語）活動の目標は、「外国語（英語）活動を通じて、『コミュニケーション能力の素地を養う』ということである。『コミュニケーション能力の素地』は、①言語や文化についての体験的理解、②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、③外国語の音声や基本的な表現、の3本柱を通じて養っていく。

この目標にかなった授業作りをするために、英語ノート（仮称）を基盤として、単元計画作り・授業指導案作り、授業実践を柱とした研究を進めた。

II 研究実績

5月16日 研究部会「1年間の研究でめざすもの」

（講師） 竹内 理

6月12日 研究部会「英語活動の授業案について」

（講師） 池田 真生子

8月19・20日 集中研修（兼：研究部会）

「授業づくりの実際」、「英語ノート（仮称）を用いたマイクロティーチング」

（講師） 池田 真生子

10月6日 研究部会（兼：中核教員研修E）

「英語ノート（仮称）を用いたマイクロティーチングの準備①」

10月20日 5年パイロット校研究授業（西南小学校にて）

5年英語ノート Lesson 3 数字で遊ぼう

（助言者） 土井 正幸 （大阪府教育委員会 指導主事）

11月17日 研究部会（兼：中核教員研修E）

「英語ノートを用いたマイクロティーチングの準備②」

12月1日 研究部会（兼：中核教員研修E）

「英語ノート（仮称）を用いたマイクロティーチングの準備③」

1月5日 研究部会（兼：中核教員研修E）

「英語ノートを用いたマイクロティーチング」

2月26日 英語活動電子黒板活用研修、並びに北小学校拠点校発表会

（講師） 住 政二郎 （姫路獨協大学 講師）

3月6日 6年パイロット校研究授業（萱野小学校にて）

6年英語ノート Lesson 6 行ってみたい国を紹介しよう

（助言者） 松永 淳子 （大阪府教育委員会 指導主事）

3月下旬 研究紀要にまとめ

Ⅲ 研究内容

1. 新学習指導要領について

小学校外国語（英語）活動の目標は、「外国語（英語）活動を通じて、『コミュニケーション能力の素地を養う』ということである。『コミュニケーション能力の素地』は、①言語や文化についての体験的理解、②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、③外国語の音声や基本的な表現、の3本柱を通じて養っていく。

小学校外国語（英語）活動において、「言語や文化に対する体験的な理解」、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」、「外国の音声や基本的な表現への慣れ親しみ」を、体験させたうえで、中学校・高等学校で系統的な外国語（英語）スキルを「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」の4技能に渡って系統的に育ませる。

2. 英語ノートについて

平成21年度（2009年度）より、全国の小学校5・6年生に配布される。教科書ではないが、新学習指導要領の主旨や中学校英語科教科書との接続性を踏まえた内容となっている。

3. 単元計画づくり・授業指導案づくりの留意点

- ・外国語活動の目標「コミュニケーション能力の素地を養う」内容とし、英語スキル中心の内容とならないように工夫すること
- ・単元目標に沿って、単元の中での授業どうしの関連性を持たせること。また、45分の中での活動においても前回までの復習を含め流れを持たせることが望ましい。
- ・各授業における目標に沿って、児童の興味・関心に沿った内容となるよう工夫すること。
- ・地域や児童の実態を踏まえた内容とすること。そのために、同じ内容であっても、パターンを変えた複数の活動を準備したり、教材・教具の工夫が望まれる。

※平成20年度作成の参考授業案は、各小学校に紙媒体で配布済み、もしくはM-N e t のライブラリからもダウンロード可能。

4. 授業と評価の観点は3つ

- ・毎回の授業に3つの観点を含める必要はなく、1つの単元で3つの観点が含まれていれば良い。

- （1）言語や文化に対する体験的な理解
- （2）積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
- （3）外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ（「習得」でない）

5. 電子黒板活用の留意点

- ・クラス担任が授業をするうえで有効な道具となりうるもの。

子どものわくわく感を引き出す、考える仕掛け、前時までの復習

- ・英語ノート付属の電子教材は、ピクチャーカードを見せながら、CDをかけて・・・という複数作業をすることなく、画面をクリックすれば音声も出るので、指導が円滑であ

る。

- ・視覚的な情報を児童に与えることができるので、不必要に難しい説明をすることなく、電子教材を教師がやってみせることで児童に活動内容を理解することができる。
- ・また、英語ノート（紙媒体）にはない情報も電子教材には含まれており、教師が授業準備をする際に用いても非常に便利なものとなっている。
- ・学校の教室で5分休憩にセッティングすることは厳しい予測されるが、英語授業に使える別の教室があるならばそこに設置することも有効であると思われる。

※各小学校の黄色パソコンにH21年度分がインストール済み。また、教育センターホームページからも引き出すことが可能。

※拠点校事業の研究として、平成20年度に北小学校で作成の電子教材も逸品。（教育センターのホームページに掲載予定。）

IV 次年度への課題

1. 「小学校外国語（英語）活動」と「中学校外国語（英語）科」をどう繋ぐか
2. 小学校外国語（英語）活動の評価の在り方

単元名(	できることを紹介しよう	)
単元目標		
。「できる」「できない」という表現を使い、自己紹介ができる。		

<単元計画>

時	目標と主な活動内容
1	① 「I can ...」 「I can't ...」 の表現を理解し、聞き取りたり話したりする。 ② 動詞の語彙を知る。 (活動内容) → (机の上に貼る) play baseball, play soccer, swim, play kendama play table tennis, ride a unicycle, play the piano play the guitar, make an omelet. ・動作のイラストカード ・動詞の確認 (ALTの発音) ・できる「I can～」できない「I can't～」 ・クイズゲーム → 黒板に貼ったイラストカードを「I can～」カードで「I can't～」その場に座る
2	① 「Can you ~?」 「Yes, I can.」 「No, I can't.」 の表現を理解し、聞き取りたり話したりする。 ② (活動内容) ・前回のピクチャーカードを使って「Can you ~?」 「Yes, I can.」 「No, I can't.」 ・ビンゴカードで遊ぶ Can you? Yes/No で答えて、理解する。
3	① 自分のできることを考え、英語(動詞)で表現できる。 ② 自己紹介の仕方を知る。 (Hello. My name is . I can .) (活動内容) ・自分のできることをイラストで発表する、その後、ALTに英語に訳してもらう ・自己紹介の流れを知り、練習する。
4	① 自分ができることをイラストをまじえて、全員の前で発表する。 ② お互いの発表を聞きあい、友達への理解を深める。 (活動内容) ・自分ができることをイラストを交えて発表したあとに、「Can you ~?」も用いて、友達2名に質問する。

- ・ can, can't を多く使う活動も考えた。
- ・ 動詞の語彙に絞った。(この部分の負担を減らすため)
- ・ クイズゲームは 創作。(きかせるゲーム)

- ・ 生活に英語に慣れている(お互いの知っている英語) 子供とおのせや
- ・ ゲームで遊ぶという事
- ・ 英語を上手に使う

平成20年度(2008年度) (6)年英語活動 単元(4)の第(1)時 授業案

目標		・いろいろな動作をあらわす言葉を理解する。 ・できる「I can」できない「I can't」の表現を理解し、聞き取り、話したりする。		
準備物		・ピクチャーカード 動作をあらわす言葉、月 (play baseball, play soccer, swim, play kendama play table tennis, ride a unicycle, play the piano, play the guitar, make an omelet)		
時間	児童の活動	指導者の活動 (HRT=クラス担任、ALT=英語指導助手)		指導上の留意点
		クラス担任の動き	英語指導助手の動き	
5	・あいさつをする。 ・前時の復習	・全員とあいさつ Hello, Hi. ・指導者二人でデモンストレーション HRT: Hello, How are you? ALT: I'm fine. / happy / hungry / sleepy. ・ALTが全員に尋ね、児童は手挙げて答える。 ・「1月～12月」も覚えているか確認		
15	・動作のジェスチャーゲーム	・ピクチャーカードにある動作をジェスチャーであらわす。 (児童はその動作がわかれば手をあげて知らせる。 発表は日本語で)	・正解したら、ピクチャーカードをみせて発声し、児童にリピートさせる。	・ゲームに慣れてきたら児童にジェスチャーをさせる。
5	・「できる、できない」を英語で表現する。	・ピクチャーカードをみせながら「できる」「できない」かを尋ねる。 ・ALTの発声のあと、児童に発声させる。	→ 「できる」 I <u>can</u> play baseball. 「できない」 I <u>can't</u> play baseball. 「できる」ときは○。「できない」ときは×と動作を入れて発声する。	・can, can'tをくり返し発声し、違いをおさえる。
10	・タックダウンゲーム (2～4のグループに分かれてチーム対抗戦)	・指導者二人でデモンストレーション ①黒板にピクチャーカードを貼る ②黒板に背を向けて立つ ALT: I <u>can</u> swim. → HRT: すぐには戻ってカードを選びタックする。 ALT: I <u>can't</u> swim. → HRT: その場に座る。		
10	・その日の評価を聞く。 ・チェックテスト内容を聞く。	・その日の良かったところを言う (態度) HRTとALTが分かれてピクチャーカードをみせる。児童は I can, I can't で答える。	・その日の良かったところを言う (英語)	
	・終わりのあいさつ	・終わりのあいさつ Good-bye, See you.	・終わりのあいさつ Good-bye, See you.	
	・チェックテストをする。	・ピクチャーカードをみせる ・合格したら good!	・ピクチャーカードをみせる。 ・合格したら good!	・動作 I can, I can't が言えるか確認する。

単元名()
数遊びほう
単元目標
- 世界の数の数え方や遊びに興味をもつ - 積極的に数を使ったゲームをしようとする 1~20までの数を使っていろいろなゲームをする

<単元計画>

時	目標と主な活動内容
1	① 1~10 ① ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ の 1~10 を 1~10 に 変える ② 1~10 - 英語の 1~10 を 1~10 に 変える - CD を 1~10 に 変える (CD 16~17 番) - Ten Steps ② 1~10 に 変える (CD 18 番) - 数字・数の集まり! 集まり
2	① 1~20 セブンス・イレブン ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑱ ⑲ ⑳ ⑲ ⑳ ⑳
3	① 1~20 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑱ ⑲ ⑳ ⑲ ⑳ ⑳
4	① 1~20 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ⑱ ⑲ ⑳ ⑲ ⑳ ⑳

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑰ ⑱ ⑲ ⑳
- ⑱ ⑲ ⑳
- ⑲ ⑳
- ⑳

平成20年度(2008年度) (5)年英語活動 単元(3)の第(2)時 授業案

目標	① 数字1~20の英語表現を理解し、聞いて・言えるようにする ② 活用場面において 数字1~20を使う			
準備物	時計、CD 「1~20」のカード(1人1セット)			
時間	児童の活動	指導者の活動 (HRT=クラス担任、ALT=英語指導助手)		指導上の留意点
		クラス担任の動き	英語指導助手の動き	
5	あいさつをする。 「Ten Steps」で前時 復習	・全体とあいさつ ・CD「音」を聞いて、見るといってリズムに乗って歌う。		
10	時計と読み 11・12の認識	・説明をする	・1から順に発音し、続けて歌わせる 11・12は繰り返し練習する。	o'clock を入らねえ 入らねえ → 12 o'clock
10	・「13~20のカードで グループワーク」 13~20の認識	・1人1枚「1~20」のカードを配る。 ・ゲームの説明をする。 (1) 13~20の中から1枚を選び (2) 同じ数字の人とグループをつくらせる	・グループの数を数え、練習させる。 30秒ほど休ませる。 ・「1~20」の発音の練習をする。	13・15のよみかた 12・20の区別
5	「Twenty Steps」で	・CD「音」を聞いて、見るといってリズムに乗って歌う。		
10	2人組で 数字カルタをやる	・ゲームの説明をする。 (1) ハサビ机の上には「1~20」のカード1セット置く (2) カルタと数字のカードを 数字をいってあはさる	・数字を添える。	
5	最後のあいさつ			

③ 5年

平成20年度(2008年度) (5)年英語活動 単元(3)

単元名()	数で遊ぶ
単元目標	
・世界の数の数え方や遊びに興味を持つ ・積極的に数を使い、ゲームをしようとする ・1～20までの数を使い、いろいろなゲームをする。	

<単元計画>

時	目標と主な活動内容
1	目標 = ① 外国のじゃんけんに出会う。 ② 数字1～10の英語表現を理解し、聞いたり、言ったりする。 ・ 英語じゃんけんをする ・ CDで、さあどこの国の1～10を聞く ・ 英語の1～10を聞き取り、言ったりする ・ 英語数字じゃんけんをする ・ 「Ten Steps」で、英語の1～10に親しむ。
2	目標 = ① 数字1～20の英語表現を理解し、聞いたり、言ったりする。 ② 活用場面において、数字1～20を実際に使う。 ・ 「Ten Steps」で、前時の振り返りをする。 ・ 英語の11～20を聞き取り、言ったりする ・ 「Twenty Steps」で、英語の11～20に親しむ。 ・ 「キーバードゲーム」 → 17の数字を覚えておいては答える。 ・ 「18の聞きとりゲーム」をする。(ねこちゃん)
3	目標 = ① 数字1～20の英語表現を理解し、聞いたり、言ったりする。 ② 活用場面において、数字1～20を実際に使う。 ・ 「Ten Steps」「Twenty Steps」で前時の振り返りをする。 ・ 1～20をカードで発音。 ・ 「グループ」(1～20までの練習)(決まり数の倍数を当てはめる) ・ 「ゼロミッドゲーム」 ・ 「ゼロバグゲーム」をする。
4	目標 = ① 数字1～20の英語表現を理解し、聞いたり、言ったりする。 ② 活用場面において、数字1～20を実際に使う。 ・ 「Ten Steps」「Twenty Steps」を教える。 ・ 1～20をカードで発音。 ・ グループで1～20のカードをめぐって発音練習 ・ クラッシュゲーム。こけしを動かして数字、言えぬとあてあそび。(Tobis. エンジンで遊ぶ) ・ 聞きとりゲームをする

・ さいごにフルダウン。
・ はじめのカード → 数字で表現

ふりかえりして答えていきながら 配慮を
りが見通しとて
3の倍より、14で、2の子は、5の子は、
全体が楽しめるように

③ 5年

平成20年度(2008年度) (5)年英語活動 単元(3)の第(3)時 授業案

時間	児童の活動	指導者の活動 (HRT=クラス担任、ALT=英語指導助手)		指導上の留意点
		クラス担任の動き	英語指導助手の動き	
	目標 ・外国の1～20までの数を言ったり、聞いたりする。 ・数を指し、ゲームを、おどろきと喜びを取りながら楽しむ。			
	準備物 ・ピクチャーカード(1～20)。 ・付属CD、プレイヤー ・P19のプリント。			
5	<前時の復習> ・あいさつをする Hello. - Hi.	・全体とあいさつ Hello. - Hi. ・指導者二人で、前でデモンストレーション HRT: Hello. How are you? ALT: Hi. I'm fine / happy / hungry / sleepy. ・HRTがピクチャーカードを見せて、ALTが発音し、児童がリピートする 必要そうであれば、意味も確認する fine / happy / hungry / sleepy ・指導者二人で分担して、一人ひとりの児童に今の様子を聞く T: Hello. How are you? S: Hi. I'm sleepy.		・表情豊かに ・前時の復習なので、児童が覚えているかを確認する
5	<Ten steps> <Twenty steps> CD(18,19番を聞いて ピクチャーをのけて歌う。	CD(18,19番をカッ 児童と一緒に歌う。	児童、HRTと一緒に歌う。	
5	<英語の1～20の確認> ・数字の1～20まで、 ピクチャーカードを使って 発音を確認する。	・1～20の順にピクチャーカードを めくり、児童と一緒に発音する ・順不同にピクチャーカードをめくる ・児童と一緒に発音する。	・順番に、英語で発音する ・児童に続けて言わせる。 ・英語で発音する ・児童に続けて言わせる。	
10	<1～20の練習> ・1～20までを、グループに 別れて順に言う。 ・決められた数字で 手拭いに。	・各グループをみて回る。 ・3や(奇数)や5や(奇数)などの数を 指定する。 ・数字を児童とデモンストレーション		グループで、1や、2や、3や、4や、5や、6や、7や、8や、9や、10や、11や、12や、13や、14や、15や、16や、17や、18や、19や、20や、を 3や、4や、5や、6や、7や、8や、9や、10や、11や、12や、13や、14や、15や、16や、17や、18や、19や、20や、を
10	<ピラミッドゲーム> ・P19の数字ピラミッドを 完成させる。 ・教室内を歩き回り、友だちと じゃんけんをして、ゲームを進める。	・指導者二人でデモンストレーション ・支援が必要な児童に配慮する。		数字のピラミッドは、1から10まで、11から20まで、21から30まで、31から40まで、41から50まで、51から60まで、61から70まで、71から80まで、81から90まで、91から100まで、を 11や、12や、13や、14や、15や、16や、17や、18や、19や、20や、を
5	<おどろかしゲーム> ・指示された数字を数え、 おどろかしをする。		・数字を指定して言う。	・グループのゲーム ・おどろかしをする。
5	・その日の評価をHRTとALTから聞く	・その日のよかった点を簡単に述べる (態度面を中心に)	・その日のよかった点を簡単に述べる (英語面を中心に)	・おどろかしをする。
	・終わりのあいさつをする Good-bye. -- See you.	・終わりのあいさつをする Good-bye. -- See you.	・終わりのあいさつをする Good-bye. -- See you.	・おどろかしをする。

単元名(数で 遊ぼう)
単元目標
・世界の数の数え方や遊びに興味を持つ。 ・積極的に数を使ったゲームをしようとする。 ・1～20までの数を使っていろいろなゲームをする。

<単元計画>

時	目標と主な活動内容
1	目標 = ① 外国のじゃんけんに触れる。 ② 数字 1～10 の英語表現を理解し、聞き取ったり言ったりする。 ・英語じゃんけんをする。 ・CDで様々な国の 1～10 を聞く。 ・英語の 1～10 を聞き取ったり、言ったりする。 ・英語数字カードゲームをする。(足し算)
2	目標 = ① 数字 1～20 の英語表現を理解し、聞いたり言ったりする。 ② 活用場面において、数字 1～20 を使う。 ・1～10までの数を振り返る。ゲーム形式で。 ・11～20の数をCDで聞く。(20 steps) ・11～20の数にカードを使って親しむ。 ・1～20までの数字カードを使ったゲームをする。
3	目標 = ① 数字 1～20 の英語表現を理解し、聞いたり言ったりする。 ② 活用場面において、数字 1～20 を使う。 ・1～20までの数を振り返る。(20 steps) ・1～20までの数字を使ったナンバーコールゲーム。 ・2人1組で数の問題を出し合うゲーム。 ・「20 steps」
4	目標 = ① 数字 1～20 の英語表現を理解し、聞いたり言ったりする。 ② 活用場面において、数字 1～20 を使う。 ・20までの集合ゲーム。 ・ナンバーコールゲーム ・ビンゴゲーム ・「20 steps」

- ・活動の用意について、子どもに役割を振り分ける。(必要に応じて)
- ・子どもが活動の意欲を高め、意欲的に取り組む。
- ・スモールステップにより進める。

平成20年度(2008年度) (5)年英語活動 単元(3)の第(3)時 授業案

平成20年度(2008年度) (5)年英語活動 単元(3)の第(3)時 授業案				
目標	① 数字1~20の英語表現を理解し、聞いたり言ったりする。 ② 活用場面において、数字1~20を使う。			
準備物	・ 付属CD・プレイヤー ・ 数字のフラッシュカード			
時間	児童の活動	指導者の活動 (HRT=クラス担任、ALT=英語指導助手)		指導上の留意点
		クラス担任の動き	英語指導助手の動き	
	・ あいさつをする。 ・ 前時の復習 CDを聞く 「20 steps」 ・ 1~20の数字を カードで復習 ・ 2人1組で ナンバーコールゲームをする。 ・ 2人1組で 英語の ジャンケンをして、勝った 方が 数の 質問をする。 負けた方が 答える。	・ 全体とあいさつ Hello. - Hi. フラッシュカードで 数を ランダムに出していく。 HRTとALTで 見本をみせる。 (1から順に3つまで 数字を交互に 言い、 20をコールした人の負け というゲーム 数を交える等して 応用していく。 HRTとALTで 見本をみせる。		① Good - Hello さんでしてスー? ② eleven ③ Good job! ・ 日本語で 質問 をして、 英語で 数を 答える。 ・ 質問が 思いつかないときは 計算問題を出す。 ④ 6×3は18でいいかな?
	・ 「10 steps」 ・ 「20 steps」 ・ 今日の評価を聞く。 ・ 終わりのあいさつ。	・ 目標に対する評価をする。 良い点と 言う。 Good bye. see you.		子供たちに10分間の休憩と おしゃべり 2人1組で数字を言うゲーム

単元名(できることを紹介しよう)

単元目標

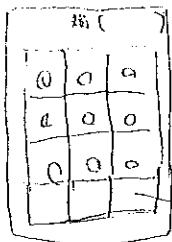
「できる」「できない」という表現を使い、自己紹介ができる。

<単元計画>

時	目標と主な活動内容
1	目標① 「I can —」, 「I can't —」の表現を理解し、聞き取り、話しする。 ② いろいろな動物が できること、できないことを考え表現する。
2	① 「Can you —?」「Yes, I can./ No, I can't」の表現を理解し、聞き取り、話しする。 ② 楽器の表現に慣れる。
3	① 「I can —」, 「I can't —」, 「Can you —?」「Yes, I can./ No, I can't」の表現に慣れる。 ② 自分のできること、できないことを英語で表現する。
4	スローモーション 自己紹介 グループでスローモーション 「I can —」の前にはセスターを入れる。 (1人ずつ、順番に) 聞いている人か順に1つ質問「Can you play the piano?」

プレイションも順番にとり、練習させる。

平成20年度(2008年度) (6)年英語活動 単元(4)の第(3)時 授業案

目標		①「I can...」「I cant...」「Can you...?」「Yes, I can./ No, I cant」の表現に慣れる ② 自分のできること、できないことを英語で表現する。		
準備物		フラッシュカード CD カード		
時間	児童の活動	指導者の活動 (HRT=クラス担任、ALT=英語指導助手)		指導上の留意点
		クラス担任の動き	英語指導助手の動き	
15	あいさつ。 復習、チャンツ フラッシュカード。 ・I can play the piano ・I can play swim ... make a melody 「Can you —.?」 「Yes, I can./ No, I cant」	・ALTに続いて言うように指示する。	・フラッシュカードを見せながら発音する 「Can you —.?」 「Yes, I can/ No, I cant」	
5	歌、I can swim。 カードに自分のできことを できないことを記入する。 	・CD 26を流す ・1回聞いた後意味を軽く説明する。 ・歌える所をたけても歌うように指示する。 ・困っている子がいなければ机間巡回 をこなす。	・練習していない表現を空白に 書いている子には指導する。	カードの半分まで 下に空欄をつけて 記入させる。 10分以内で終わらせる
12				
10	練習。 「I can —」 (セスターをさがす) 「I cant —」 HRTかALTに聞かせる	・子どもの練習を聞き、 シールをはる。(ほめる)	・子どもの練習を聞き、 シールをはる。(ほめる)	
3	終わりのあいさつをする。			